

平成25年度
「お茶で北海道を美しく。」キャンペーン
助成活動報告



平成26年3月31日
NPO法人北海道遺産協議会

平成25年度「お茶で北海道を美しく。」キャンペーン 助成先一覧(計6件)

No.	遺産の名称	地域	団体名称	活動の名称	助成額
1	天塩川	流域市町村	北海道カナディアンカヌークラブ	ダウン・ザ・テッシン-オーペツ2013開催事業	160,000円
2	登別温泉地獄谷	登別市	登別市	施設維持管理業務	400,000円
3	内浦湾沿岸の 縄文文化遺跡群 (史跡北黄金貝塚)	伊達市	縄文スクスク森づくりの会	北黄金貝塚における縄文の森の案内板の作成	200,000円
4	旧国鉄士幌線 コンクリートアーチ 橋梁群	上士幌町	NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会	旧糠平駅構内に桜、もみじの植栽事業	300,000円
5	野付半島と打瀬舟	別海町、標津町	野付半島ネイチャークラブ	野付半島の遊歩道景観美化活動	120,000円
6	ワッカ/小清水原生花園	北見市/小清水町	小清水町	小清水原生花園火入れ活動	150,000円

1. ダウン・ザ・テッシー・オ・ペツ2013(清掃活動)

- 実施主体：北海道カナディアンカヌークラブ（美深町）
- 実施団体URL：<http://www.town.bifuka.hokkaido.jp/cms/index.html>
（美深町HP）
- 助成額：160,000円

ー活動内容ー

- ・ カヌーツーリング大会の開催を通じて、北海道遺産「天塩川」の大自然と触れ合い、河川景観や環境保全に対する関心を高める。
- ・ カヌーツーリング大会前、大会期間中に清掃活動を展開し、クリーンリバーの提唱、普及を図った。

○事前清掃活動 6月22日、6月30日、7月6日

○大会期間 7月13日～15日

- ・ また、北海道命名之地をもつ音威子府で大会開会式において、北海道遺産「天塩川クリーンリバー宣言」を行い、参加者全員がツーリング中にゴミ拾い等のクリーンリバーを推進することを誓い合った。



遺産の名称：
「天塩川」（流域市町村）



天塩川は延長256km、北海道第2位の長大河川。松浦武四郎は天塩川内陸調査の途上で「北海道」の命名をしたとされる。川の名前の由来となったテッシー（アイヌ語で「梁」（やな）の意味）が数多く点在し、河口までの160kmを一気に下ることができる日本有数のカヌー適地としても知られ、愛好者たちは20ヶ所のカヌーポートから大河を下っていく。

2. 施設維持管理業務（展望台・遊歩道等の木床、木柵の修繕）

- 実施主体：登別市
- 実施団体URL：<http://www.city.noboribetsu.lg.jp/>（登別市HP）
- 助成額：400,000円

一活動内容一

・登別は、年間約300万人の観光客の方々が訪れる北海道を代表する観光地である。中でも登別温泉地獄谷は、登別温泉最大の源泉であり、また、自然散策等を楽しむことができる自然景勝地として、最も人気のある観光スポットとなっている。

・しかしながら、当該展望台や遊歩道等の木床や木柵は、硫黄の影響により腐敗が進んでいることから、観光客の方々に見映えが良く、安心・安全にご利用いただけるよう腐敗箇所の修繕等を行った。

-修繕前-



-修繕後-



遺産の名称：
「天塩川」（流域市町村）



地獄谷は北海道を代表する温泉地・登別温泉最大の源泉です。直径450mの谷底には大地獄を中心に15の地獄があり、毎分3,000ℓが湧き出している。登別温泉は「温泉のデパート」と形容され、多泉質が湧き出しており、これは世界的にも珍しい。地獄谷の周辺には表面温度が40～50度になる大湯沼、頂きから白煙が立ち上り、高山植物の名所としても知られる日和山、登別原始林などが広がる。

3. 史跡北黄金貝塚公園における縄文の森の案内板の作成

- 実施主体：縄文スクスク森づくりの会（伊達市）
- 実施団体URL：<http://www.funkawan.net/kitakoga/mori.html>
（縄文スクスク森づくりの会HP）
- 助成額：200,000円

一活動内容一

- ・当会は、史跡北黄金貝塚公園に縄文時代に生えていた木々を植えて、当時の植生を復元することを目的としています。
- ・13年前から市民ボランティアによって、毎年5月に植樹をし、9月に自然観察会や収穫祭を行っています。
- ・植樹された木々は、「縄文の森」として成長しており、北黄金貝塚公園を訪れる修学旅行生に解説をしています。
- ・また、市内の自然公園の一つとして、森を訪れる市民も多くなっており、植樹した木々や野草等の解説を行うため、案内板を設置し、縄文の森を自然体験の場として、これからも有効に活用していきます



遺産の名称：

「内浦湾沿岸の
縄文文化遺跡群」
（函館市、伊達市など）



内浦湾沿岸は北海道と本州を結ぶ縄文文化の交易路で、函館市の南茅部地域には現在91ヵ所の遺跡が確認されている。また、大船遺跡や垣ノ島遺跡をはじめ、著保内野遺跡で発掘された「中空土偶」は北海道初の国宝に指定されている。伊達市の北黄金貝塚は、縄文早期（7000年前）～中期（6000～4000年前）の遺跡で、住居や全国的にほとんど例のない「水場の祭祀場」が発見されている。

4. 旧糠平駅構内に桜、もみじの植栽事業

■ 実施主体：NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会（上士幌町）

■ 実施団体URL：<http://arch-bridge.sakura.ne.jp/>
（NPO法人ひがし大雪アーチ橋友の会HP）

■ 助成額：300,000円

一活動内容一

・当会では旧糠平駅構内（上士幌町鉄道資料館敷地）で桜、もみじの植栽を平成18年度から行っている。その本数は桜が27本、もみじが20本になり春・夏・秋に桜の開花や紅葉が来場者の目を楽しませている。

・美しい緑や鮮やかな紅葉は人の心を和ませて、重要な観光資源になる。目指すは鉄道遺産と自然との共生である。植樹する樹木はエゾシカ対策のために幼木でなく高さ2.5mのものを使用した。



遺産の名称：

「旧国鉄士幌線コンクリートアーチ橋梁群」（上士幌町）



昭和初期に十勝内陸の森林資源の運搬を目的に建設された第1級の鉄道遺産。地元住民を中心とした活動で保存が実現された。中でも季節によって見え隠れする「タウシュベツ川橋梁」、32mの大アーチを持つ「第三音更川橋梁」が有名。地元NPOの保存・利活用へ向けての活発な活動は全国的にも市民活動のモデルとされている。

5. 野付半島の遊歩道景観美化活動

- 実施主体：野付半島ネイチャークラブ（別海町、標津町）
- 実施団体URL：<http://notsuke.jp/>（野付半島ネイチャーセンターHP）
- 助成額：120,000円

ー活動内容ー

・野付半島には、景勝地トドワラへ向かう約1.3kmの遊歩道がある。遊歩道には、そこに咲く花々を説明する看板が数ヶ所に立っているが、文字が読めないほど老朽化していたため、今回寄付金を使用して看板を新しく作り変えた。



遺産の名称：

「野付半島と打瀬舟」
（別海町、標津町）



全長26kmの日本最大の砂嘴（さし）で、擦文時代の竪穴式住居も見られる。江戸時代には国後へ渡る要所として通行屋が設けられ、北方警備の武士も駐在しました。トドワラ、ナラワラの特異な景観や、春と秋に野付湾に浮かぶ打瀬舟の風景が多くの人々をひきつけている。北海シマエビ漁に用いられる打瀬舟は野付湾の風物詩として知られ、霧にかすむ舟影は幻想的。

6. 小清水原生花園火入れ活動

- 実施主体：小清水町
- 実施団体URL：<http://www.town.koshimizu.hokkaido.jp/>
(小清水町HP)
- 助成額：150,000円

ー活動内容ー

・平成16年に北見市の「ワッカ原生花園」と合わせて北海道遺産に登録された「小清水原生花園」は、枯れた牧草類の堆積により、ハマナスやエゾスカシユリなどの花々の生育が妨げられ衰退傾向にあることから、平成5年から毎年枯れた牧草類の堆積物を除去するために火入れを行い、花々の咲き乱れる風景の回復を図っています。



遺産の名称：

「ワッカ／小清水原生花園」
(北見市、小清水町)



ワッカ原生花園は「龍宮街道」と呼ばれる日本最大の海岸草原。オホーツク海とサロマ湖に面し、春から秋には300種以上の草花が咲き誇る。車の乗り入れ規制や地元漁協による植林など先駆的な試みを展開。小清水原生花園は一時期、花が衰退したが、平成5年より野焼きや帰化植物の除去を行い、花のあふれる公園によみがえった。後背部の濤沸湖沿いにあるヒオウギアヤメ群落とそこに放牧される馬の群れは特有の景観。